



## 9月、多くのイベントと夏の終わり。 平和を祈り、秋の始まり。

### ■岐阜県BA.5対策強化宣言

新型コロナウイルス感染症の拡大に歯止めが利かない中、岐阜県では8月5日に「岐阜県BA.5対策強化宣言」が発令されました。宣言の発令期間は9月30日まで延長される見通しです。

宣言の中で、救急医療が逼迫している状況を少しでも解消するためのいくつかの要請がありました。救急車や救急外来の利用は真に必要とする場合に限ること、ワクチンの追加接種の検討、高齢者や基礎疾患のある人と会う際の事前検査などです。また、岐阜県により無料検査が実施されています。美濃加茂市内では4ヶ所の実施場所が提供されています。事前に利用条件などをご確認ください。

### ■各地でコロナ対策、 工夫を凝らしたイベント開催

新型コロナウイルス感染症拡大と向き合いながら、8月は市内各地でいくつものイベントが開催されました。ほぼ全てのイベントが過去2年開催されていなかったこともあり、どのイベントにも多くの皆さんの笑顔が戻ってきていました。どの会場でも、コロナ対策にはかなりの配慮がされており、スタッフの方々のご努力が強く感じられました。私もこれまでに何度もイベント開催に関わってきました。一つのイベントを開催するにあたって、その企画から準備、告知、お金の計算、本番、片付けなど、多くの作業が必要となり、それは決して一人きりでできるものではありません。特に地域のイベントは、ビジネスとして行うものではないため、その労力はボランティアであることがほとんどです。

コロナ禍による何年もの行事中止につい





て危惧することは、地域において長年行われてきたことが受け継がれなくなってしまうことです。行事の多くは、具体的なマニュアルや資料によって引き継がれることなく、人から人へと伝えられてきました。資料によって伝えられているものでも、実際は現場での感覚や記憶に頼らざるを得ないことも多くあります。そのようなことが何年も中止となってしまうことで、いざ、復活しようとしても実行できる人がいないという状況になってしまいます。



先日、伊深の正眼寺において老師からお話を伺う機会がありました。老師曰く、「お寺の多くの行事はコロナ禍でも実施している、実施しないことで失われてしまうことが多くある」とのことでした。医療現場の状況を把握し、十分に配慮しながら、ウイルスの毒性や感染状況によって、私たちの生活にとって必要なことを可能な範囲

内で行っていきけるよう、知恵を絞っていきたいと考えています。

## ■8月6日、9日、15日

美濃加茂市では、広島に原子爆弾が投下された8月6日午前8時15分、長崎に原子爆弾が投下された8月9日11時2分、そして終戦の日8月15日正午に1分間「平和の鐘」を防災無線から放送し、黙祷をお願いしています。今年は何名の方が、平和の鐘に耳を傾け、そのひと時を大切にしていただけでしょうか。



戦後77年。美濃加茂市では美濃加茂中、西中、東中、双葉中の各2名の生徒さんが、長崎で行われたピースフォーラムに参加されました。また、美濃加茂市在住、関高校地域研究部の生徒さんが戦時中に美濃加茂市、坂祝町、関市にまたがって整備が進められていた「関飛行場」について研究発表を行い、全国大会で最優秀賞を受賞されました。

現在でもウクライナはじめ、世界中で武力衝突が起こっています。私は、武力侵攻を当然許してはいけなから考えますが、それを取り巻く状況や経緯も含めて考えを深



めなければ、戦争は防げないと考えます。目の前の報道に一喜一憂することなく、歴史を深く学び、その悲惨さを受け止め、現在と未来のために行うべき行動に繋げなければならぬと考えます。

## ■第3回定例会、 市議会議員選挙

今年は4年に一度の市議会議員選挙があります。10月2日投票です。そのため、9月議会と呼ばれる第3回の定例会が例年よりは少し早いスケジュールで開催されており、既に8月31日から9月1日に一般質問が行われました。定員16人中15人（1人は議長）が質問通告をされ、市政について多くの意見や提案をいただきました。

市議会議員選挙の状況は、定員数16名のうち資料を取りに来た陣営は16。一方、ある議員さんによれば、立候補の準備を公言している人は16人に到底満たないということです。私が初めて立候補したのが12年前の市議会議員選挙でした。厳しい選挙を通じて、多くの市民の皆さんのご意見をいただきました。その厳しさ故に、強い使命感と責任感を持って議員活動に向き合うことができました。1人でも多くの方に、選挙に関心を持っていただき、立候補の検討もしていただき、これからの美濃加茂市の政治がより活性化することを強く願います。

## ■消防職員、消防団員が躍動

私たちの安心安全のために、常備消防と

して消防、救急などの業務に携わっている人たちがいます。美濃加茂市は可茂消防事務組合を可児市、加茂郡、御嵩町の2市7町1村で構成しています。その管理者を美濃加茂市長が務めることになっています。可茂消防を代表して、隊員の皆さんが名古屋市で開催された「消防救助技術東海地区指導会」に出場されました。いくつもの種目がありますが、どれも災害や火災現場を想定したもので、



日々の訓練が私たちの生命に直結することを目の当たりにしました。

また、美濃加茂市消防団を代表して市の操法大会で優勝した第3分団の団員の皆さんが県大会に出場されました。炎天下、さらにはコロナ禍で課題が多い中でしたが、素晴らしい操法を披露してくれました。

このような過酷な訓練が繰り返し行われることで、私たちの生活が保たれていることを多くの人々に知ってもらうことも大切なことだと思っています。

藤井浩人